

道路の穴や危険箇所、 どうすれば改善される？

「道路に穴があいている」「草木で見通しが悪い」「通行する時に危ない」そんな身近な道路の困りごとは、どうやって市に伝えればよいのでしょうか。

対応につながるやすいのは、唐津市公式 LINE の「損傷報告」から要望する方法です。



損傷報告の流れ

- ① 唐津市公式 LINE の下にある「損傷報告」アイコンをタップ
- ② 該当する項目をタップして進み、**写真・動画を添付**
※報告内容をもとに、市の職員が場所や状況を確認します。
できるだけ分かりやすく入力することが大切です。
- ③ **区長さんへ共有**し、後日フォローしてもらう
※個人の要望だけでなく、地域の要望として伝わりやすくなる。
- ④ **地区の議員へ共有**し、後日フォローしてもらう
※職員の対応後、議員が状況や結果を確認できる場合がある。



「〇〇さんに言った」というだけでは、場所や内容が正確に伝わらず、スムーズに進まないことがあります。また、同じ箇所に関する要望件数が、緊急性の判断につながる場合もあります。人に任せるだけでなく、気づいた方が自分から報告することも大切です。市内には多くの要望箇所があります。限られた予算を有効に使うため、市は必要性や緊急性の高い道路から対応する仕組みになっています。場所や状況が正確に伝わることで、対応する優先順位も整理されやすくなります。

困っている箇所があれば、写真や動画を添えて、ぜひ LINE で報告してください。

教室を飛び出して、海と漁師さんが先生に

6月9日、幸多里の浜で行われた佐志小学校の地引網に参加し、私も子どもたちと一緒に人生初の地引網を体験しました。

実は私、船に乗るのかと思い、酔い止めまで飲んで現地へ。でも実際は、2隻の船が大きな網を海に張り、子どもたちが砂浜から力を合わせて網を引くものでした。いざ網を引いてみると、とにかく重い。漁師さんのかっこいい体つき、納得です。唐津の漁師さんたちの事前準備のおかげで、マダイ、チヌ、スズキ、イカ、ハコフグなどが網に入り、子どもたちは大興奮。環境の変化により、今は漁として地引網を行うことはないそうです。それでも、地元に残る文化や行事を守るために、毎年この機会をつくってくださっています。

海のまち唐津だからこそ

みんなで力を合わせる漁業体験。多種多様な魚を見て、触る。地域の大人から話を聞く。そして最後に海岸のごみ拾いをして、帰る。唐津の自然、産業、食文化、地域のつながりを一度に学べる、なんとも贅沢な教育環境でしょう。

地域資源を教育に活かせることは、唐津市の大きな強みです。



Team River（唐津市議会議員 古田リバー後援会）

〒847-0855 佐賀県唐津市西浜町 1-15

電話 070-3970-0774（直通）

メール info@team-river.com

https://team-river.com/



ふるたリバー

検索 🔍

Team River（唐津市議会議員 古田リバー後援会）ニュースレター



書・画
書心舎

だるま通信

高橋是清の
ひ孫から

2026

8月

Vol.6

唐津市議会議員・古田リバー

3月と6月の議会は、思った以上に大変でした。更年期も始まったようで、漢方を飲み始めました。気合いだけでは、もう乗り切れません。少し休もうと思って、Netflix で話題のアニメやドラマを一気見。気分転換のつもりだったのに、「人って何に動かされるんだろう」「私は何を求めている、何を求められているんだろう」と、結局また考え込んでいました。議会が終わっても、市政のことを考えている。ChatGPT には、「施策マニア」と言われました（笑）。そんな自分に少し笑いながら、暮らしの中の違和感を出発点に、唐津市に必要な問いと提案を重ねています。



高橋是清との共通点

私の曾祖父・高橋是清は、人生の中で何度も大きな困難に直面しながら、そのたびに人との縁に支えられて道を切り開いてきた人です。実は私も、唐津の駐車場で車の事故に2回も遭いました。

正直、「は？また？？」と思った。でも不思議なことに、困ったときには必ず誰かが手を差し伸べてくれました。特に松本議員は、車の修理屋さんを紹介してくれたり、私の体調を気にかけて移動を支えてくれたり。本当に助けられました。「大丈夫。困ったときには、必ず助けてくれる人が現れる！」そう思わせてくれる方たちが周りにいることが、私と高橋是清の共通点であり、唐津への信頼と愛の源なのだと思います。



選挙前は、月曜日から土曜日の朝7時から9時まで、産業道路沿いの自宅前で通勤中の皆さんに挨拶をしていました。選挙後も、10日に1回を目標に続けています。

7/10（金）～19（日）は、佐賀県内で交通事故防止や交通マナー向上に向けた啓発運動、街頭指導が重点的に実施されました。夏休み前のこの時期は、子どもや高齢者の安全確保が大切です。

朝の手ふり活動は、交通安全の啓発活動の一つでもあり、私もこの期間中、産業道路沿いで朝の手ふり活動を行いました。

明るくあいさつと、元気よく飛び跳ねる「リバージャンプ」。少しでも交通安全への意識づくりにつながっていたら嬉しいです。

これからも、無理なく、でも途切れさせずに、地域の朝の見守りを続けていきます。



手を振ることも、地域を見守ること

3月議会で私が重視したのは、Plan・Do・Check・Action、いわゆるPDCAです。計画して、実行して、結果を確認して、次に改善する。ビジネスでは当たり前だけど、市の事業では「予算をつけました」「実施しました」で終わり、その後どうなったのかが見えにくいことがあります。色々やっているのに、ちゃんと成果として見えてこないのは、本当にもったいない。だから3月議会では、議案質疑で「目的・成果・持続可能性」を軸に、7項目について17問を確認しました。そして、一般質問では、免許返納後の移動支援、市政情報のユニバーサルデザイン、ドローンを活用した地域課題の解決をテーマに質問し、もう一步踏み込んで9つの政策を提案しました。

●移動 免許返納後の社会的孤立を防ぐ交通支援

①「りふれ」への送迎やアクセス改善【△】

菜畑地区では予約型乗合タクシーのエリアを拡大。「りふれ」周辺は、路線バスの一部を産業道路経由に切り替える方法などを協議中。

② 免許返納者への3年間の割引助成を延長【×】

実施に至らず。今後の研究課題。

③ 七山、呼子、鎮西、肥前地区などで、割引制度と併用する「上限設定型助成」を導入【×】

地域差への課題認識は示されたものの、今後の研究課題。



●情報 市政情報のユニバーサルデザイン

① 市報以外の行政情報もLINEで発行通知【○】

令和8年5月号から、広報誌等の発行案内とリンクがLINEで配信。

② 音訳成果物を市公式ホームページで公開【○】

令和8年6月号から、「からつ市報」と「議会だより」がYouTubeで聴けるように。

●ドローン 地域課題解決のための人材育成

① 農業者向けの国家資格取得支援【△】

国や県の支援制度の活用、外部事業者の情報提供、県内スクールの紹介などで対応。

② 消防団でドローン有資格者を育成【×】

消防団行事の見直しや資機材更新を優先。現場から要望が多ければ検討。

③ ローカル発注に地域経済循環や人材育成の視点を反映【×】

現行制度を維持。

④ ドローン利用者向けのヘルプデスク設置【×】

国の相談窓口を基本とする。

結果について

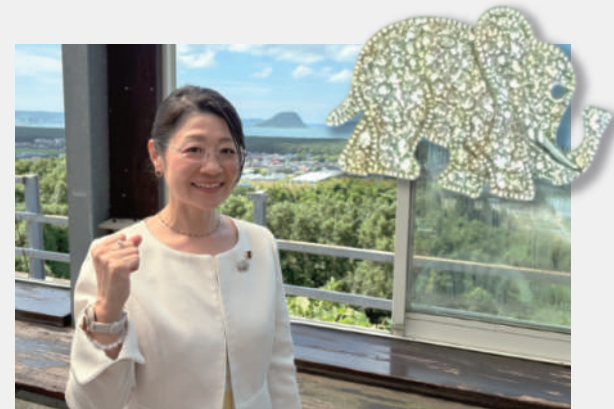
【○】=実行予定
【△】=検討する
【×】=見送り

3月議会報告

リバー、がんばるゾウ

以前は、議員バッジの下にペンギンのブローチを付けていました。でも紛失してしまい、あまりのショックで、風邪までひいてしまいました。

そこで、母が大切にしていたゾウのブローチを胸元に、6月議会へ。しょんぼりしている私を田中議員が励ましてくれました。「ゾウでいいじゃない!いつもお母様に見守ってもらって。これからも、やるゾウ!がんばるゾウ!」その言葉が、涙が出るくらい嬉しかったです。これからはこのゾウのブローチを胸元に、しっかり取り組むゾウ〜!



6月議会報告

6月議会の一般質問では、高齢者の投票権の確保と、認知症フレンドリーなまちづくりをテーマに質問しました。これからますます高齢化が進む中で、体の状態や移動手段の違いによって、投票したくても投票できない人が増えてしまうと、新たな「民主的格差」につながるおそれがあります。また、認知症=何も分からなくなる病気、という誤解をなくし、認知症になっても、できる限り自分らしく、住み慣れた地域で長く暮らせる環境づくりも大切です。これからの時代は、「相談に来てください」と待つだけでは足りません。必要な方に、行政側から働きかけて支援を届ける。その視点がますます重要になります。そのため、高齢になっても、認知症になっても、社会とつながり続けられる唐津市を目指し、9つの提案を行いました。

●高齢者の投票権の確保

①「不在者投票施設」の指定拡大【○】

対象施設への情報提供と相談対応を、県選挙管理委員会と連携しながら強化。

② 施設職員向けの出前講座【○】

不在者投票制度や適切な投票支援について、施設から依頼があれば対応。

③ 小規模施設利用者への制度周知【○】

50名未満の小規模施設利用者にも、市ホームページ等で利用可能な制度を周知。

④ 介護保険制度を活用した投票支援【○】

ケアマネジャーや介護事業所に対し、投票機会の確保につながる情報提供を強化。

⑤ 福祉・医療施設等への期日前投票所設置【○】

福祉・医療施設等ではなく、現時点では幅広い世代が利用する商業施設を候補として検討中。



●認知症フレンドリーなまちづくり

① ICTを活用した早期発見・早期相談【○】

「認知症簡易チェックサイト」を導入済。令和8年9月にはVRセルフチェッカーを初実施予定。

② 社会参加・就労継続支援【○】

認知症の人も「共に地域をつくる存在」と位置付け、社会参加や活躍の場づくりを重要と認識。

③ 認知症フレンドリーなサイン・動線設計【△】

統一ガイドラインは未定。一方で、福岡市の手引きなどを参考に、福祉部局と情報共有し、UDに配慮。

④ 救急隊員向けのユマニチュードなどの

コミュニケーション講座【○】

認知症の方への対応力向上のため、コミュニケーション研修を検討。



●都市整備委員会と岡山県倉敷市へ



●会派と福岡市へ

視察研修は、他の自治体や現場の取組を実際に見て、唐津市の課題解決に活かせるヒントを探す活動です。

そのため私は、普段から唐津の皆さんと会話を重ね、現場で何を大切に、何に困っているのかを考えるようにしています。視察先でも意識するのは、「何を優先して守っているのか」「どんな工夫をしているのか」「唐津に置き換えたらどうか」という視点。どの現場でも、限られた時間と資源と予算の中で、最善を尽くして取り組んでいる。だから、単純に「良い・悪い」や「正解・不正解」で判断しないようにしています。

唐津に戻ってからは、市民や行政職員と意見交換を行い、議会での質問や政策提案へ。こういう姿勢で視察に参加すると、唐津の課題を別の角度から見直し、新しい提案が見えてきます。これからも、視察で得た気づきを「へえ〜」で終わらせず、唐津の政策に変えていきます。



●一人で東京都へ

ふるたリバー後援会よりお知らせ

チームリバーの仲間を随時募集中!

唐津市政の発展と住民福祉の向上を一緒に目指す方々とながりませんか?

オンライン申し込み先



ホームページ



ブログ